



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主要要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
4/7 (月)	+ 700	▲ 10,100	▲ 9,400	国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補充供給 + 2,200		日: 日銀支店長会議、地域経済報告 (さくらレポート、4月) : 毎月勤労統計 (2月) : コール市場残高 (3月) 欧: ユーロ圏小売売上高 (2月)
4/8 (火)	+ 1,000	+ 8,000	+ 9,000				日: 国際収支 (2月) : 貿易収支 (2月)
4/9 (水)	トン	▲ 8,000	▲ 8,000	国債発行 (30年)			日: 植田日銀総裁、第100回信託大会であいさつ 米: FOMC議事要旨 (3月18、19日開催分)
4/10 (木)	トン	+ 3,000	+ 3,000	国庫短期証券発行償還 (6M)			米: CPI (3月)
4/11 (金)	トン	▲ 20,000	▲ 20,000	国債発行 (5年)			米: PPI (3月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比7,100億円増加の530兆4,600億円から始まった。その後、国債発行や国債買入等の要因により増減し、4日は528兆2,700億円 (速報) で越週した。
無担保コールON物加重平均金利は週初0.476%から始まり、その後も横ばい圏で推移した。
ターム物は1W~3W物0.478%~0.650%のレンジ、1M~3M物0.540%~0.750%のレンジで出合が見られた。
来週の予定は、国内では7日に日銀支店長会議が開催され、海外では9日にFOMC議事要旨 (3月18、19日開催分) の公表、10日に米CPI (3月) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.47 ~ 0.478
1M	0.55 ~ 0.70
2M	0.55 ~ 0.75
3M	0.58 ~ 0.80
6M	0.65 ~ 0.90

<レポ>

足許GC取引は週初+0.45%を下回る水準で出合いが見られたが、後場には+0.48%近辺まで上昇した。
その後は週末まで+0.48%~+0.50%のレンジを中心に推移した。輪番オベのあった2日も水準に変化は見られなかった。
SC取引は2年460~468回債、5年155~177回債、10年355~370回債、20年110~130回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40台
CP 3M	0.60 ~ 0.70

<CP>

今週の入札発行総額は約7,100億円で、週間償還額の5,600億円を上回った。発行残高は先週末時点の23兆5,399億円から、4月3日時点で21兆6,771億円に減少した。発行市場は、石油製品、化学、ガス業、電気業、卸売業などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物では、発行量の少ない銘柄は0.50%台前半、期明けの調達再開により残高が積みあがった銘柄では0.50%台後半での出合いとなり、発行残高によりばらつきがみられた。また、3か月物は0.60%台半ばから0.60%台後半での発行気配が見られた。
来週の償還額は7,200億円となっている。発行市場は、引き続き期明けの調達再開が本格化し、発行超が見込まれる。発行レートは、5月1日の日銀金融政策決定会合での利上げへの警戒感により、1か月に関しては0.50%台後半から0.60%台前半、3か月物に関しては、0.60%台後半から0.70%台前半と、レート水準を探る展開が予想される。

<TDB>

4月4日の3M (1297回債) の入札は、最高落札利回り0.3974% (前回債0.3472%)、平均落札利回り0.3870% (前回債0.2934%) となった。
来週の入札は9日に6M、11日に3Mが予定されている。